

# 食 農 びっくあっぷ

2026年3月号  
No. 204  
東海農政局



ウェブサイト

## 「第2回みどり戦略学生チャレンジ東海ブロック大会」受賞チームが決定しました

農林水産省は、将来を担う若い世代の環境に配慮した取り組みを促すため、大学生や高校生等による「みどりの食料システム戦略」に基づいた活動を実践する機会として、「みどり戦略学生チャレンジ」を実施しています。

東海農政局は、2月9日に「第2回みどり戦略学生チャレンジ東海ブロック大会 表彰・意見交換会」を開催し、東海ブロック（岐阜県、愛知県、三重県）から応募のあった27チーム（高校の部：12、大学・専門学校の部：15）の中から、食料・農林水産業の持続に向けた課題解決などについて特に優秀な取り組みを行ったチームにグランプリ、準グランプリおよび審査委員特別賞を贈呈しました。



表彰・意見交換会 会場参加者

審査委員等から表彰状を手交するとともに、各受賞チームによる取り組み内容の発表や意見交換を行いました。



受賞チームとの意見交換

各チームの取り組み  
など詳細はこちら →

<https://www.maff.go.jp/tokai/kikaku/midori/challenge.html>



### <高校の部>

#### 三重県立四日市農芸高等学校

竹間伐材を用いた持続可能な養鶏飼料の開発  
～竹に命を!鶏に力を!地域にみのりを!～

放置竹林を活用して輸入飼料への依存解消を図り、コスト削減や卵の高付加価値化による持続可能な鶏卵生産を目指して、竹粉飼料の開発および地元農家への普及活動を実施



### グランプリ

### <大学・専門学校の部>

#### 東海学院大学

産学官連携で取組む規格外野菜の商品化Ⅱ

環境負荷低減に配慮して栽培したにんじんを用い、容器にはバイオプラスチックを使用した弁当を開発・販売。弁当には環境配慮を見える化したラベルを貼付し、持続可能な消費について消費者の理解を促進



### 岐阜県立大垣養老高等学校

社会へ繋げる畜産廃棄物  
～堆肥化とバイオガス発電で社会貢献!～

馬糞等を堆肥やバイオガス発電に活用し、輸入肥料や化石燃料に依存しない循環型農業を目指す取り組みを実施

### 準グランプリ

#### 東海学院大学

大学生が取組む「maxiみどり戦略」

規格外野菜やジビエを用いたカレーを商品化するとともに、栄養バランスの良い食生活や食品ロス削減を推進し、持続可能な食と農について消費者の理解促進に向けた活動を実施

### 審査委員特別賞

#### 三重県立相可高等学校

バイオマス産業のまちづくりを目指して  
～バイオマス栽培そして身土不二栽培へ～

#### 岐阜県立加茂農林高等学校

未来に向けた特殊卵開発

#### 愛知県立安城農林高等学校

トマト副産物を活用したBSFによる資源循環型食料生産

#### 名城大学

ためして、サボテン! ニューノーマルの食料資源に向けて、「珍しいね」の次のステージへ

#### 名古屋経済大学

ワインパミスを有効活用したおいしいレシピの開発に挑戦!

#### 中部大学

ウチワサボテンの食品加工  
～ゲル化・色彩保持・乳化安定性の特性評価～

お問合せ先 企画調整室 TEL 052-223-4610

農林水産省  
東海農政局

## 令和7年度 農業農村整備事業優良工事等の表彰式を行いました

東海農政局は、毎年、「前年度に完了した所管の工事または測量・調査・設計業務であって、その成果が優秀であり、他の模範となるもの」および「工事等を実施した受益地域内における優れた地域貢献活動」について、表彰を行っています。

今年度は、2月5日に表彰式を行い、東海農政局長表彰6者を表彰しました。



### 受賞者の皆さん

(写真：前列左2人目から右に向かって)

(株) 熊谷組 名古屋支店 執行役員支店長 林 大輔 氏  
りんかい日産建設 (株) 名古屋支店 支店長 中川 敦久 氏  
TSUCHIYA (株) 代表取締役社長代行執行役員 河村 亨 氏  
NTCコンサルタンツ (株) 代表取締役社長 大村 仁 氏  
(株) 三祐コンサルタンツ 代表取締役社長 堀田 昇克 氏

お問合せ先 農村振興部 設計課 TEL 052-223-4634

### 【工事】

TSUCHIYA (株)

件名：西濃用水第三期地区 揖西幹線水路神戸暗渠耐震化対策他補修工事

りんかい日産建設 (株) 名古屋支店

件名：新濃尾 (二期) 地区 新木津用水路春日井兵田岩野工区その1工事

(株) 熊谷組 名古屋支店

件名：矢作川総合第二期地区 明治本流 (下流部) 耐震化対策里・浜屋工区その3-2工事

### 【業務】

NTCコンサルタンツ (株) 中部支社

件名：新濃尾 (二期) 地区 犬山頭首工小水力発電所操作・管理マニュアル等作成その2業務

(株) 三祐コンサルタンツ

件名：矢作川総合第二期地区 変更事業計画書作成業務

### 【地域貢献活動】

NTCコンサルタンツ (株) 中部支社

件名：宮川用水第二期地区内における地域貢献活動

受注者の関連記事はこちら →

<https://www.maff.go.jp/tokai/noson/nn/kouken/251224.html>



### みどり戦略関連

## 「国内肥料資源の利用拡大セミナー」を開催しました

東海農政局は、1月21日、中部地方整備局との共催により、名城水処理センター (名古屋市北区) において、「国内肥料資源の利用拡大セミナー」を開催しました。

当日は、農業者、肥料製造事業者、行政関係者など約70名が参加し、輸入原料に依存した肥料から国内資源を活用した肥料への転換に向けて、「下水汚泥の肥料利用」をテーマとした講演や事例紹介などが行われました。

### 基調講演



東京農業大学名誉教授、全国土の会会長の後藤逸男氏による講演

### 事例紹介



名古屋市上下水道局 (左) と、株式会社大地 (右) による下水汚泥肥料の活用事例の発表

質疑応答では、「下水汚泥の焼却灰をそのまま肥料として使用できるのか」「生産した肥料は全量流通しているのか」「肥料の料金や配送サービスの有無」などの質問が寄せられました。

参加者アンケートでは、臭気への対策、安全性の理解、実際に使用する農業者へのアプローチなど、汚泥肥料のイメージアップおよび利用拡大に向けた更なる課題が挙げられました。

講演・発表の資料はウェブサイトにて公開しています →

<https://www.maff.go.jp/tokai/seisan/kankyō/cost/260213.html>



お問合せ先 生産部 環境・技術課 TEL 052-746-1313

## 「令和7年度 鳥獣対策優良活動表彰」の受賞者が決定しました

農林水産省は、毎年、鳥獣被害防止や捕獲した鳥獣の食肉（ジビエ）の利活用等に取り組み、地域に貢献している個人や団体を表彰する「鳥獣対策優良活動表彰」を実施しています。

このたび、東海農政局管内（岐阜県・愛知県・三重県）で「奥三河高原ジビエの森」（愛知県設楽町）が、捕獲鳥獣利活用部門で農林水産大臣賞を受賞しました。

**農林水産大臣賞**  
(捕獲鳥獣利活用部門)

**奥三河高原ジビエの森**  
(愛知県北設楽郡設楽町)



真空パックしたシカ肉

### 主な取り組み

- 捕獲したシカ等を、捕獲者の処理負担を軽減しながら地域資源として有効活用し、地域の食文化をPRしていこうと、「奥三河つく高原グリーンツーリズム推進協議会」が、ジビエ食肉処理施設「奥三河高原ジビエの森」を平成27年4月に創業。
- ジビエの流通規格・トレーサビリティの導入や地域住民を対象としたジビエの調理方法のセミナーに早くから取り組み、多くの視察を受け入れるなど、ジビエの普及拡大に寄与。



← 奥三河高原ジビエの森ウェブサイトはこちら



ワークショップでの活動紹介

お問合せ先 農村振興部 農村環境課 TEL 052-223-4631

## 鳥羽商船高等専門学校で特別講義を行いました

東海農政局は、1月9日、独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校（以下「鳥羽商船高等専門学校」という。）と連携して、情報機械システム工学科および生産システム工学専攻科の学生19名を対象にスマート農業等に関する特別講義等を行いました。



はじめに、松下企画調整室長から「スマート農業をめぐる情勢について」と題し、工学系の学生が関心を持つ分野を中心に講義を行い、続いて三重県拠点中川地方参事官から、「2025年農林業センサス結果からみた農業の現状」と題した講義を行いました。

その後、学生による研究成果の発表があり、最後に行った「農業現場の課題」をテーマとしたグループワークでは、学生から課題解決に向けたさまざまな提案がありました。

学生からは、今回の講義を踏まえ、「農業者との意見交換や実証実験を行いたい」との意見がありました。

### 学生による研究発表

- ①ロボット犬を用いた完全自動害獣対策システム
- ②ノリ養殖をカモの食害から守る「めたましーど」
- ③みかんの栽培から販売までを省力化・効率化する一元管理システム「みかえる」



### グループワーク

三重県拠点が情報収集した農業現場の課題を提示し、職員からのアドバイスを受けながら、グループワークを実施。学生からは、工学系の視点に基づくさまざまな対策案が提示されました。

#### <農業現場の課題>

- ・農業用排水路掃除の効率化
- ・蓮台寺柿の脱渋確認作業の自動化
- ・ヒドリカモによる麦の食害対策 等

#### <学生からの提案>

- ・農業用排水路のゴミ回収の機械化・効率化
- ・赤外線を利用した柿の渋抜き判定
- ・AI検知と組み合わせた高圧水鉄砲による鳥害対策 等



今回の特別講義は、令和6年9月に鳥羽商船高等専門学校と三重県拠点が締結した包括的連携協定に基づく取り組みです。三重県拠点は、鳥羽商船高等専門学校の学生が開発・研究している低コストなスマート農業技術の現場実装に向け、今後も連携して取り組んでいきます。

お問合せ先 三重県拠点 TEL 059-228-3151

# 今年度も「官庁街フードドライブ」を開催しました

東海農政局は、2月13日、食品ロス削減運動への理解の促進と自ら率先して取り組む機運醸成を図るため、名古屋市、愛知県、環境省中部地方環境事務所と連携し、「官庁街フードドライブ」を6か所で開催しました。名古屋市の官庁街に勤務する職員などが缶詰やレトルト食品、精米など323点（99kg）を持ち寄り、認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋に寄付しました。

## 官庁街フードドライブの流れ



食品寄付の様子



東海農政局会場で集められた食品

フードドライブとは、家庭にある手つかずの食品をフードバンクや地域の福祉施設などに寄付する活動です。

フードドライブはスーパーやコンビニの店頭をはじめ、図書館やスポーツイベント等さまざまな場面で開催されており、東海農政局でも「消費者の部屋」において実施しています。

東海農政局が実施したフードドライブの取り組みはこちら →

<https://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/access/250805.html>



お問合せ先 消費・安全部 消費生活課 TEL 052-223-4651

# 農山漁村に眠る地域資源を活用する事例を学ぶ「地域のちから再発見」交流会を開催しました

農林水産省では、農林水産物だけでなく地域の文化・歴史や景観など農林水産物以外の多様な地域資源も活用し、農林漁業者はもちろん、地元の企業も含めた多様な主体の参画によって付加価値を創出していく「地域資源活用価値創出」の取り組みを推進しています。

東海農政局はその一環として、1月16日、ウインクあいち（名古屋市中村区）で、事業者等を対象とした「地域のちから再発見」交流会を開催しました。

当日は、「地域資源を活用した地域の活性化」をテーマとした講演やパネルディスカッションを行ったほか、事業者による商品展示や名刺交換会を実施し、参加者間での交流が活発に行われました。

### 講演



飛騨産直市そやなのトマト店長から、地域の資源を活用した店づくりや販売戦略についてお話を伺いました。

### パネルディスカッション



道の駅とよはしの副駅長 吉開仁紀氏、三重で老舗のかぶせ茶農家を営みながら自家製の茶を使ったお菓子作りに取り組む堤ちはる氏を交えて、地域資源を生かした地域の活性化などについて意見が交わされました。

### 商品展示・名刺交換会



商品展示では、自社の農産物を使った6次産業化の商品や、地域の産品を用いた取り組み等について、事業者が紹介をしました。

地域資源活用価値創出の取り組みはこちら →

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/inobe/index.html>



お問合せ先 農村振興部 都市農村交流課 TEL 052-223-4630

【編集後記】皆さまお気づきかもしれませんが、当広報誌のタイトル「食・農びっくあっぷ」の「・」部分のカット絵と文字色は時季に合わせて毎月変更しています。当月の「カット絵」はいちごで、東海地域では例年GW頃までいちご狩りが楽しめます。

<編集> 東海農政局 企画調整室 TEL 052-223-4610

<ウェブサイト> <https://www.maff.go.jp/tokai/>

東海農政局



「食・農びっくあっぷ」ウェブサイト



メールマガジンの登録はこちら



東海農政局公式 X